

令和3年度第2回滝沢市産業振興会議 会議録

1 会議の名称

令和3年度第2回滝沢市産業振興会議

2 開催日時

令和3年11月24日（水）10時00分～12時10分

3 開催場所

滝沢市役所4階 中会議室

4 出席状況

(1) 会議を構成する委員

会長	市島 宗典	岩手県立大学総合政策学部 准教授
副会長	下田 富幸	滝沢市自治会連合会 会長
委員	阿部 正喜	滝沢市商工会 会長
委員	中島 恒夫	滝沢市観光協会 会長
委員	武田 裕子	新岩手農業協同組合 滝沢支所 支所長
委員	小野寺 宣元	東北銀行 滝沢支店 支店長

(2) 事務局

経済産業部長	長内 司善
観光物産課長	大槻 智康
農林課 総括主査	海老澤 愛
企業振興課長	佐々木 敬志
企業振興課 総括主査	宮田 聖子
企業振興課 主査	佐々木 佑

5 傍聴人の有無

なし

6 会議資料の名称

(1) 次第

(2) 名簿

(3) 資料1 分野ごとの産業振興施策展開について【商工業】

(4) 資料2 分野ごとの産業振興施策展開について【農林業】

(5) 資料3 分野ごとの産業振興施策展開について【観光物産】

(6) 資料4 滝沢市産業振興条例の展開、次年度予算要求について

(7) 参考資料 滝沢市産業振興条例

7 会議記録

(1) 開会

(2) 挨拶

滝沢市産業振興会議会長より挨拶

(3) 議題

市島会長が議長を務め、議題（１）から（３）まで全て公開することについて、出席した委員から承認を受けた上で、議事の進行がなされた。内容は次のとおり。

ア 今年度の産業振興施策の進捗状況について

【進行】会長

「商工業分野」、「農林業分野」、「観光物産分野」、それぞれについて説明願う。はじめに商工業分野について説明願いたい。

【説明】企業振興課長

※別紙「資料１」の内容に沿って、説明を実施。

【質疑】委員

最初のページの法人事業所数は経済センサスの数字か。

【回答】企業振興課長

法人事業所数は、市税務課で持つ事業所数データからの引用となる。

【意見】委員

市の特色である大学を活かした取組を行うのであれば、早めに5G基地局を整備したほうが良いのでは。企業誘致において、企業も来やすくなると思われるし、一般市民へのサービス向上にもつながると思う。通信網の整備は大きな強みになると思われる。

また、大学と地域が連携した地域ICTクラブの創設は非常に良いことだが、幅広い層を対象にしてもらえるとありがたい。商工会が今年度行っているpay payキャンペーンは20%が還元される形であり、そういうきっかけがあれば進むように思う。

【回答】企業振興課長

5Gについては、通信会社との交渉にはなるが、色々な可能性を秘めた通信網なので、推進していきたいと考えている。イノベーションセンター内に、5Gアンテナを立ててくれている会社があり、小規模なエリアではあるが、その会社のスマートフォン等では5Gが使用可能である。

次に、ICTクラブについて、総務省が推奨する事業で、子ども向けということにはなっているが、県立大学もある中で色々な人材がいると思われるため、ICTクラブという形にこだわらず、市全体のICT化を進めたいと考えており、機会をとらえて、色々仕掛けていければと考えている。

【意見】副会長

施策目標の実績の数字から見れば順調に進んでいるように見受けられるが、「セミナー、フォーラム等の交流回数」が目標に対して2倍近くの実績となっている。目標の設定が甘かったのか。ある程度、目標値を高く持ち、それを達成するのが目標だと思うが、実績が大きく上回っているので、目標を上回った場合は修正したほうが良いのではないか。

【回答】企業振興課長

目標値を上回ることは良いことだと捉えているが、目標値が累積回数ということもあり、過去実績が後々の年度まで残るものであるため、次期総合計画の策定の際には、累積でなく単年度評価にするなど、見直す必要があると思っている。セミナーの回数で良いのかという点も含めて、再度検討したい。

【質疑】委員

個々の企業という単位でなく、大きな組織として考えていくことについて、どのように考えるか。他の市町村では首長自ら商工会に入るようにと各事業所へ通達を出しているところもあると聞いている。

【回答】企業振興課長

全事業者に対して一斉通知は行ったことはないが、昨年度、コロナに関する助成金を売り上げが落ちた事業者に対して支給した際に、商工会への加入を支給の条件とした。機会を捉えて、加入者数の増につながる取組を行いたい。

【質疑】委員

企業誘致について、立地を検討されている企業、市側で働きかけを行っている企業の有無を教えていただきたい。

【回答】企業振興課長

イノベーションパークへの立地、イノベーションセンターへの入居について、問合せいただいている企業はある。

【質疑】委員

施策目標値の「センター、パークへの立地件数」について、令和4年度目標値29社というのは達成可能な数字か。

【回答】企業振興課長

パークの空き区画も少なくなっており、新たな誘致がしにくい状況。次期総合計画の策定時には、立地件数という指標で良いのか検討したいと考えている。また、産業用地についての検討も併せて行う必要があると考えている。

【進行】会長

次に、農林業分野について説明願う。

【説明】農林課総括主査

※別紙「資料2」の内容に沿って、説明を実施。

【質疑】会長

施策目標の「農業後継者の有無の割合」は、後継者がいる割合か、いない割合か。

【回答】農林課総括主査

後継者がいる農家の割合となる。

【質疑】委員

農業後継者の有無の割合は、産業振興において大事なポイントと考える。令和元年度実績58.6%に対し、令和2年度は37.6%となっているが、なぜ20ポイントも落ちたのか。

【回答】農林課総括主査

この指標は農林業センサスを出典元としており、2015年に実施された際と2020年に実施された際に聞き方が変わっていることによる。この指標は2015年に実施された際の

聞き方をそのまま引用しているものである。

前回のセンサスでは、後継者となる可能性がある子ども等がいるかどうかで農家の方々が回答したため、50%以上となっていたと推測される。2020年のセンサスでは「後継者として5年以内に農業経営を引き継ぐ後継者を確保していますか」という聞き方に変わっており、なおかつ、「親族か」、「親族以外の経営内部の人材か」、「経営外部の人材か」という3項目に分かれているものであったため、答える側の農家としては、希望的観測ではなく、具体的に答える必要があると感じたため、シビアな数字になったものと思われる。農業後継者の減少は、実際の課題であるため、今後、取組を検討していきたい。

【質疑】委員

農家の後継者に関連して、以前は使われていた農地でも、現在は荒れ放題という所が多々見られる。後継者がおらず、そのままになっていることも多い模様。そういう土地を法人で受けて管理するという方法もあると思うが、市では、どのように考えているか。

【回答】農林課総括主査

所有者が亡くなられた後、後継者が農業をしないケースは数多くある。その場合、法人も含めた個々の農業者に対し、農業委員会が農地のマッチングを行っている。ただ、その際に問題となるのが、木が生えているなど、そのまま耕作できない場合、誰が整備して耕作できる状況にするかという点となる。受け手を探すことに加え、基盤整備も課題となっている状況。資金もかかる話であるため、農林課、農業委員会が中心となり、農地活用について検討していきたい。

【意見】委員

昨年スイカの出来があまり良くなかったために、今年はスイカ畑を止めてしまった農家がいるようだ。不作だった際の手当も必要と思われる。

【回答】農林課総括主査

不作に加え、コロナの影響でスイカまつりを盛大に開催できない状況でもあったため、滝沢スイカを全国的に知っていただけるよう、送料無料とする事業をコロナ関連の予算で昨年度実施した。今年は、昨年と反対に豊作だったが、コロナ関連の予算で送料無料を継続して行った。

作付けに対しての補助、不作だった場合の補填を本市は現時点で実施していないが、農業共済の収入保険の加入促進につながる取組については進めている状況である。

【意見】委員

収入保険の保険料が高くて止めたという話を聞いたことがあるので、保険料の補助があると良いと思う。

【回答】農林課総括主査

多くの農家が掛金を負担に感じていることを市でも把握していた。これもコロナ関連予算にはなるが、収入保険に加入している方、これから加入しようという方への補助金が今年度の補正予算で可決されており、収入保険への加入を推進している状況である。

【意見】副会長

農地集積について、どの程度、集積が進んでいるか教えてもらいたい。「若者定住」ということで議会などでも話が出ているようだが、農地を拡大して雇用を生むというのも若者が地域に入るきっかけになるのではと思う。

【回答】農林課総括主査

後日、資料を提示する。

※追加資料として、会議後に委員に配布。

【意見】委員

滝沢市産業振興条例を基本として、どのように地域経済を持続させるかということが大事になると思うが、そのためには後継者の有無は重要な項目であると思う。目標値を修正した上で、この数字を今後維持していくということで市内の事業者と意識共有してともに取り組んでいく形にしてはどうか。どの分野においても、数字を維持しながら、少しでも数値を上げていけるよう、皆で詰めていくのが条例の趣旨だと思う。

【進行】会長

最後に、観光物産分野について説明願う。

【説明】観光物産課長

※別紙「資料3」の内容に沿って、説明を実施。

【意見】委員

観光協会の法人化に向けて進めているとのこと、大変良いことだと思うが、法人化した後の人的な体制強化は必要だと思われる。

ふるさと納税において、産直の連携も必要になってくると思われる。

【回答】観光物産課長

ふるさと納税に関して、当課で所管する前はポータルサイト1つのみで納税を募っていたが、昨年度に当課に所管換えがあった後に2つのポータルサイトを追加しており、今年度さらに1つを追加したので、現在4つのポータルサイトでふるさと納税を募っている状況。

本市は観光協会が中間事業者であるため、観光協会と連携し、新たな商品の取扱いに努めながら、納税の寄付を募っているところである。

中間事業者としての手数料は観光協会の収入源であり、納税が増えれば、観光協会の経営基盤の強化にもつながる。知見を有する外部の民間企業の活用を検討しながら来年度はさらに納税を増やしていきたい。

次に、産直との連携について、ビッグルーフの産直「たきざわキッチン」の滝沢市産の商品をふるさと納税の返礼品にするなど、連携を図っている状況。市内には産直が複数あるので、引き続き、連携して対応していきたい。

【意見】副会長

シルバー人材センターに関して、仕事がないので会員を辞めざるをえない状況があるようだ。加入年齢が65歳に上がったことも会員が減少した理由だと思うが、それよりも、やりたくても仕事がないために、加入が進んでいないことが問題だと思う。以前は市の様々な業務をシルバー人材センターで受けていたが、現在、市では安く請け負う事業者に委託している形だと思う。市の財政の問題もあると思うが、シルバー人材センターを支援する立場として、仕事をシルバー人材センターに依頼してほしいところである。

【回答】観光物産課長

以前は、水道検針など市の複数の業務を依頼していたが、それを民間に変えたことも会員の減少理由の1つになっていると認識している。シルバー人材センターを支援する

ことは、高齢者雇用の拡大となるため、元気な高齢者の方々の支援につながると考えているし、直接的な随意契約が可能であると国でも認めているので、それを踏まえながら今後の支援を進めていきたい。

【意見】委員

観光やイベントなど、新型コロナウイルス感染症の対策の点で苦慮されていることと思う。基本施策目標指標の「滝沢市の地場産品をよく買っている人の割合」と「滝沢市に愛着のある人の割合」について進捗状況を見ると、地場産品を買っている人の割合は年々増加しているが、滝沢市に愛着のある人の割合が年々減少している。このことについて、どのように考えているか。

【回答】観光物産課長

施策目標指標の「ここ1年で、滝沢市内で、自分の住んでいる地域以外の行事に参加したことがある人の割合」が減少傾向にあり、こういったことも地域への愛着の減少につながっているのではないかと考えている。コロナの影響で、多くの地域行事が中止になっている状況にあるが、それらが正常化していくことが重要で、市としても、正常化に向けた支援を行っていくことがこれから必要になると考えている。

イ 次年度予算要求について

【進行】会長

次に、議題（2）「次年度予算要求について」、事務局より説明を願う。

【説明】事務局

※別紙「資料4」の内容に沿って、説明を実施。

【意見】委員

「各事業者の意見を聞く機会の創出」は、ぜひ実施してもらいたい。各事業者の意見も取り入れながら産業振興を進めてもらいたい。

【意見】副会長

「市民による地域の事業者の把握と利用促進」について、市民の定義を広く解釈し、市内の事業所や団体も「市内のものを買う」、「市内のものを使う」ことが大事だと思う。例えば、会議やイベント、団体の総会などを他市町村で行っている場合もあると思うが、そうではなく、「市内の施設・事業所を使う」など市内調達していく必要があると思う。

【回答】企業振興課長

市の事業など、そういう部分が率先して市内の施設を使う形にしていきたい。

ウ その他

【進行】会長

次に、議題（3）「その他」について、情報提供や意見などあれば発言願う。

【意見】委員

イノベーションセンターのほか、盛岡西リサーチパークも埋まっている状況なのか。将来的な企業誘致について、どのように考えているか。

【回答】企業振興課長

盛岡西リサーチパークについては、現在、全て埋まっている状況。

課題である産業用地の拡大を最も進めたい場所としては、岩手県立大学の周辺である。拡大について検討を始めている段階だが、都市計画の見直しが必要な地域であるため、

時間がかかるものとなる。機会を逃さないよう、関係機関と事前協議を進めながら、産業用地の拡大を図りたい。

【意見】委員

滝沢中央スマートインターが出来て大変便利だと感じているが、その周辺に企業誘致する施策を考えても良いのではと思うが、どのように考えているか。

【回答】企業振興課長

スマートインターの誘致段階では、産業用地の可能性に係る話は出ていた。しかし、農地であること、住宅地が近いこと、交通量のことなど、解決しなければならない問題が複数あるため、内部で検討会議を行っているものの、進めるのが困難な状況である。

【意見】委員

土地がなければ発展していかないとと思うので、良い選択肢、良い土地があれば、進めていただきたい

【回答】企業振興課長

スマートインター周辺の全域が厳しいわけではなく、部分的に建物を建てられる地域もある。企業側から立地をしたいという申し出があった際は、しっかりとした対応をする。

【情報提供】委員

事業者と市民の方々の連携を目的として昨年も実施した商工会青年部花火について、今年も行うことが決まっている。また、事業者と市社会福祉協議会の連携により、一人親世帯にオードブルを配る事業も予定している。今後、皆様に連携やご協力をお願いすることもあると思うので、その際はよろしく願いしたい。

【要望】委員

新型コロナウイルス感染症の影響で、農産物の需要が非常に低下しており、農産物の価格の低下がみられる。農業者の収入が大幅に減少しているため、担い手の育成や新規就農者に関する取組にも影響が出るおそれがある。農業者に対しての支援を滝沢市でも検討いただければと思う。

【回答】経済産業部長

販売農家の収入減少について、各市町村でも対策を考えている状況である。本市でも販売農家に対しての支援を検討しており、今後議会に諮って進めていく段階。

【意見】委員

当然ながら人も必要であるが、資金が産業振興において必要不可欠である。滝沢市の制度融資は1,000万円までとなっているが、雇用を増やす等を条件にしても構わないと思うので枠を拡充出来るのであれば拡充願いたい。

また、中小企業の後継者問題は実際のところ、深刻な状況であり、県内でもM&Aが進んでいる。廃業を考えている市内事業者と事業を拡大したい事業者をマッチングする機会を作り、市内で事業継続できるようにしていく取組が必要になると思う。現時点でイベントは開催しにくいと思うが、市と金融機関、各機関が連携して、そういった機会創出をしてもらえればと思う。特に一番深刻なのは、事業主が亡くなられて廃業という形である。その時点で廃業になってしまう。事業主の年齢が高齢化している状況であり、その辺りも含めて情報を集約したほうが良いかと思う。

【回答】経済産業部長

中小企業振興資金について、他市町村の状況の情報収集や調査などを行った上で今後検討することとしたい。

後継者問題については、農業、商工業など各分野において大きな課題と認識している。各事業者の抱える課題等を知る必要がある。各機関の皆様から、助言や情報提供をいただければと思う。

【意見】委員

出せる情報、出せない情報それぞれあると思うが、各機関がそれぞれ持っている情報の共有は、この産業振興会議における話題として丁度良いのではないかと考える。

【進行】会長

以上で、議事は終了とする。皆様の協力を得ながら、市の産業振興に関して意義のある会議を今後も開催できればと思う。

(4) その他

【進行】企業振興課長

次第の4「その他」について、議題以外の事で何かあれば発言いただきたい。

※委員を含む出席者からの意見なし

(5) 閉会